

- 2 家の将来を考えよう
- 3 起業スクールを開講
- 4-5 特集 再出発を支える
歩み出す背中に手を
- 6-8 街の話題/コラム/お知らせ

デジタル広報配信 アプリは「マチイロ」「カタログポケット」ネットは「マイ広報紙」

田んぼも ぼくらの教室



「足が抜けないよ」「ちゃんと深く植えるんだよ」。青空の下、一面に広がる下依知の水田に、子どもたちのにぎやかな声が響き渡ります。初めて入る田んぼの感触に興奮してはしゃぎ、顔や体を泥まみれにしながらい「元気なお米が育つように」と苗を植えていきます。

依知南小学校では、食や農業の大切さを教えるため、地元の農家などと協力して28年前から田植えの体験授業を実施。約280人の子どもたちが植えた苗からは、250⁺のもち米が収穫されます。当初から携わる農家の井上慎一さん(77・金田)は、「米ができる過程を楽しく学んでほしい。自分たちが頑張った作ったものをおいしく食べてもらえれば」と話します。

米は近年、品不足や価格高騰などで関心が高まっています。屋外での特別授業は、子どもたちの心に、農家をはじめとした食を支える人への感謝の気持ちを根付かせたことでしょう。

Zoom Up

みんなで取り組む空き家対策

家の将来を考えよう

少子高齢化による人口減少や核家族化が進む中、誰もが空き家の所有者になる可能性があります。空き家が放置されると老朽化による倒壊や害虫の発生、不法侵入による犯罪などのリスクが高まります。トラブルを未然に防ぐため、事前に管理・活用方法を考えましょう。

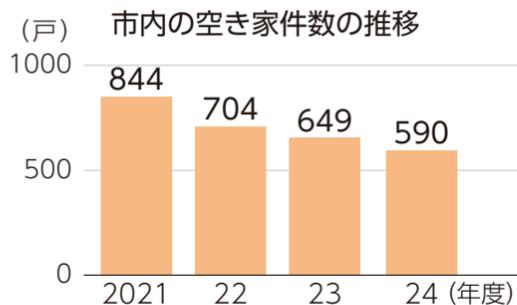
近年、不動産の所有者が亡くなっても相続されず、土地や建物が放置されるケースが増えています。2024年度の調査で確認できた市内の空き家は590戸で減少傾向にあります。しかし、全国的に空き家が増え続けていることを受け、昨年4月からは不動産の相続登記が義務化されました。所有者が亡くなった場合、相続人は土地や建物を管理しなければなりません。

解体も選択肢の一つに

空き家の多くは、将来の家の扱い方が話し合われていないことで生まれています。そこで、家の将来を考えるきつ



空き家の解体を市がサポート



かけづくりとして、冊子「住まいのエンディングノート」を作成しました(右下欄参照)。ノートには家系図や土地・建物の所有状況、住宅ローンの借入金、貴重な家財などの状況が記入できます。情報を整理して家族などで共有し、スムーズな引き継ぎに活用することができます。

他にも空き家の解体費用の一部を補助する制度を設け、適切な管理と生活環境の保全を後押ししています(左下欄参照)。補助金を利用した熊坂まり子さん(69)は、「実家が空き家となり、近所に迷惑をかけてしまうのが気掛かりだった。市の補助金を知り、解体に踏み切れた」と話します。

困ったら迷わず相談を

空き家や相続した家などの扱いに迷ったときは、弁護士や司法書士、宅地建物取引士などの専門家に相談してください。他にも、空き家を譲渡した際に譲渡所得から最大3000万円が控除される特別措置や不動産団体との個別相談会・マッチング支援なども実施しています。

空き家を放置すると、問題が複雑化してしまいます。将来、大切な住まいが空き家になって困らないよう、一人一人が事前の備えと早めの対策を心掛けます。

☎住宅課 225-2330



空き家にしないため適切な管理を

市空き家対策協議会 松下啓一さん(74)

便利な立地から、利活用できる空き家が多いのが厚木市の特徴です。所有者の約7割が市内に住んでいるので、異常がないかの点検や売却の検討をお勧めします。

空き家にしないためには事前の備えが大切です。まずは家族で住まいの将来や管理方法を話し合うことが第一歩となります。日頃から近所の方とコミュニケーションを取り、空き家になった際に相談しやすい関係を築いておくことも重要です。「まだ大丈夫」と問題を先送りにせず、少しでも心配な点があれば、行政や専門家に気軽に相談してください。

最大50万円

老朽空き家解体工事補助金



《対象の工事》

①1年以上の空き家②国の住宅不良度の測定基準または1981年5月31日以前に建てられ、市の空き家老朽度の測定基準の点数が100点以上③所有権以外の権利が設定されていない一の一の全てを満たす市内の個人所有戸建て住宅の解体と敷地を更地にする工事(2026年3月31日まで完了)

《対象者》

空き家の所有者・相続人、敷地の所有者
☎工事着工前に住宅課225-2330へ。

詳細はこちら



空き家のお悩みはこちらまで

名称	相談内容	連絡先
住宅課	空き家全般	☎225-2330
宅地建物取引業協会	不動産取引(売買)	☎224-6561
全日本不動産協会		☎042-705-7100
県弁護士会	権利関係の整理など	☎045-211-7719
県司法書士会	相続登記など	☎050-5212-0632
市建設業協会	解体・改修	☎221-0171
県土地家屋調査士会	建物の滅失登記など	☎045-312-1177
県行政書士会	相続人または権利者の調査など	☎080-6518-5648

早めの鍵 空き家対策を

住まいを誰にどのように残したいかを話し合うなど、できることから始めましょう。☎住宅課225-2330

空き家にしないために



住まいの将来を家族と相談

誰が引き継ぎ、どうするかの方針を話し合っ決めて



不動産登記の情報整理

現在の不動産登記を確認し、不動産情報を整理する



家財の整理

空き家になる前に、あらかじめ家財などを整理する

住まいのエンディングノート

家の「生かし方」や「しまい方」などをまとめました。



《内容》家系図や土地・建物の所有状況や将来どうしたいかなどの記入ページ、市の補助金や住まいに関する制度の紹介など

《配布場所》住宅課や各公民館(市HPにも掲載)

電子版はこちら





起業スクールの後押しで夢を実現した澤田さん

Zoom Up

皆さんの“やりたい”をサポート

起業スクールを開講

起業・独立の夢を後押しする「あつぎ起業スクール」の申し込みが、7月1日から始まります。多くの起業家を輩出した創業支援のプロから、起業・経営に欠かせない知識を幅広く学べます。

学びながら仲間づくり

起業スクールは、市内で事業を立ち上げる方をサポートする取り組みで、2008年に始まりました。16年間で599人が受講し、144人の起業家を輩出。より多くの皆さんの夢を後押しするため、今年からは受講者枠を30人から40人に増やしました。

本年度は、8月下旬から講義が始まります(右下欄参照)。創業支援の専門家から6回にわたり、起業の仕方や経営に欠かせない会計の仕組み、収支計画の立て方など、ビジネスの基礎的な知識を学びます。金融機関をはじめとした創業支援機関による個別相談も実施し、一人一人のビジネスプランの作成をサポート。先輩起業者の体験談も聞けます。

受講者の年齢層は20〜60代と幅広く、創業を目指す業種は飲食店や服飾店、宅配業、電気設備業などさまざま(下グラフ参照)。講義にはグループワークを多く取り入れ、同じ夢を持つ皆さんが情報交換しながら学び合えることも魅力です。



新たな視点で世界が広がる

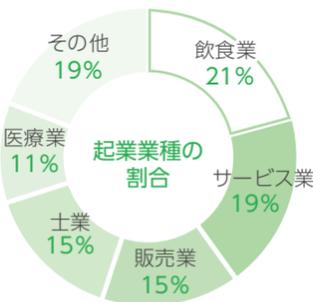
2024年起業スクール卒業生
澤田 聖子さん (53・寿町)

野鳥調査員の経験を経て、子育てが落ち着いたタイミングで興味があった養蜂業を始めたいと思いました。会社員をしながら起業の仕組みを調べていた時、起業スクールの存在を知りました。

スクールでは、講師から個人経営の経理や創業の基礎が学べたほか、SNSを活用した商品の紹介や情報発信などの運用を勧められました。実践してみると、遠方の養蜂業の方との交流やインターネットでの販売につながり、スクールでのアドバイスがビジネスに生きています。他にも学んだことを生かし、パッケージに力を入れました。マルシェなどで出店した時に手に取ってくれる人が増え、手応えを感じています。

起業の基礎を学べるだけでなく、継続的なサポートも受けられるので、市内で起業したい方にはぜひ受講してほしいです。

修了者は多様な分野で活躍



修了後も継続的にサポート

スクールは、国が認定する「特定創業支援等事業」に位置付けられています。修了者は市の証明を受けると、会社を設立する際の登記に必要な登録免許税の軽減、開業資金の貸付利率引き下げなど、一般創業者より手厚い支援が受けられます。さらに中小企業診断士などによる相談窓口も充実。融資や経理などの悩みを解決できる体制を整え、受講後も続けてサポートします。「起業の夢をかなえたい」。一人一人の「やりたい」をサポートし、まちの活気につなげていきます。

産業振興課 ☎25-2832

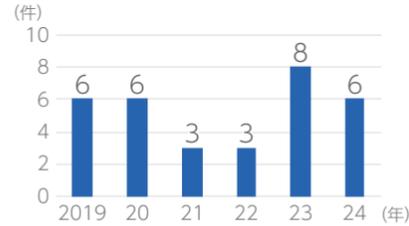


事故に遭わない心掛けを

水の事故に注意

市内の川では毎年、水の事故が発生しています。一人一人が事故を起こさない行動を心掛け、川のレジャーを楽しみましょう。 ☎警防課☎223-9368

市内河川への救助隊出動件数



事故を防ぐ6つのポイント

- 子どもだけで遊ばない・遊ばせない
- 子どもから目を離さない
- 自分の泳力を過信しない
- お酒を飲んだら川に入らない
- 溺れている人を見つけたら周囲に知らせ、119番通報する
- 応急手当ての知識を身に付ける

あつぎ起業スクール

受講生募集

《日時》8月23・30日、9月6・13・20日、10月4日(全6回) 13~17時

《会場》厚木商工会議所ほか

《内容》成功する起業の条件、マーケティング戦略、ビジネスモデルの作成、資金・利益計画、融資制度などの講義、個別相談など

《対象》市内で起業予定または起業後1年以内の方40人程度

《費用》6000円

☎産業振興課や公民館、市HPなどにある申込書を直接または郵送、ファクス、Eメールで7月1~31日(必着)に、〒243-0017栄町1-16-15厚木商工会議所 ☎221-2153・☎221-2152・✉kigyou@atsugicci.or.jpへ。市HPからも申し込み可。選考あり。



詳細はこちら



参加者募集 あつぎ食育アドバイザー養成講座

食の豊富な知識を身に付け、地域で食生活改善や食育を推進するボランティアを養成する講座を開催します。

☎健康医療課☎225-2201

《日時》①9月3日~10月24日②11月5日~12月17日(各全10回)

《会場》あつぎ市民交流プラザ

《対象》食のボランティアとして活動する意欲がある市内在住の18歳以上16人(託児あり)。1歳~小学3年生5人。要予約。抽選)

《費用》2000円(食材費の一部、テキスト代ほか)

☎健康医療課や市HPにある申込書を、直接または郵送で7月31日(必着)までに〒243-8511健康医療課へ。抽選。☎



詳細はこちら

☎産業振興課☎225-2832



近況を確認する高橋さん

「良い天気の日が増えて、散歩が気持ちいいね」「体の調子は良くなったの」。日常の何げない話をしている高橋さんと保護観察対象者の田中一郎さん(75・仮名)は月2回、保護観察の面談をしています。高橋さんは、6年前から保護司として活動。約4年前から田中さんと面談を重ねてきました。対象者であることの後ろめたさから一人で過ごし、人とのつながりが薄い田中さんがリスタートするため、面談の時間を大切にしています。「高橋さんと会うのが楽しみです。うれしくてついしゃべ

犯罪を繰り返さないために

保護司 高橋知己さん(54・中町)

「良い天気の日が増えて、散歩が気持ちいいね」と笑顔で浮かべた田中さん。高橋さんも照れくさそうに笑います。

迷いながらのスタート

保護司は、刑務所からの出所者や非行をした人などの保護観察対象者が再び罪を犯さないよう支援する民間のボランティアです。法務大臣から委嘱を受け、全国で約4万6千人、市内では現在45人が活動しています。高橋さんが活動を始めたのは48歳の時。昔からの知り合いが保護司をしており、高橋さんが青年会議所で理事長を務めた経



自宅を訪問して面談することも



研修では事例ごとの対応を話し合う

験などを買って誘ったのがきっかけでした。「推薦されて引き受けたが、専門的な知識や経験のない自分に務まるのか不安だった」と当時を振り返ります。保護司になってすぐに担当したのはSNS上のトラブルで保護観察になった18歳の少年でした。「優秀で真面目、勉強にも一生懸命な少年だった。ただ、自分のなかが罪になるという自覚がなかったのだと思う」。面談や家での様子から人とのコミュニケーションが苦手だと感じました。少年にたくさんの人と出会ってほしいと思い、勉強だけでなくアルバイトや友人との交流を積極的にするよう勧めた高橋さん。家族の支えもあり非行を繰り返さなかった少年は、通常よりも早く保護観察を終えました。「期間の短縮を伝えた時、お母さんと彼と一緒に

「自分の居場所がある人は再犯をしないことが多い。でも、居場所をつくるのは本人の努力次第。保護司は、それを手伝える大切な役割と『思っている』。道を踏み外した人たちが社会に戻れるよう、高橋さんは伴走者としての歩みを進めます。

高橋さんは現在、2人の保護観察対象者を担当しています。面談時には話しやすい空気づくりを常に心掛け、聞き手に回しながら寄り添います。法務省などが開く研修や勉強会にも定期的に参加し、法律や制度、傾聴のテクニックなどの勉強も欠かしません。保護司として6年間で10人以上を見てきましたが、今でも新しく担当を持つ時は不安や重圧を感じています。それでも活動を続けるのは、保護司になった責任があると感じているからです。

泣いたのを覚えている。彼が立ち直れたのは家族の理解と彼自身の頑張りがあったから」と目を細めます。



他の保護司との情報交換も大切にする

伴走者の一人として

7月は犯罪防止強化月間 社会を明るくする運動

犯罪や非行のない、安心で安全な社会を目指す全国的な取り組みです。



- パネル展
- 《期間》7月1～31日
- 《場所》ロードギャラリー
- 《内容》保護司や更生保護女性会の活動を紹介

みんなで支え見守る社会に

関東学院大学 法学部教授 江崎 澄孝さん(73)

犯罪や非行の原因はさまざま、本人の性格や家庭、周りの環境などの影響を受けています。慣れ親しんだ思考や生活から抜け出すのは簡単ではありません。今の環境を抜け出したいと思う強い気持ちと周りの理解が重要になります。一人で立ち直るのは難しいため、社会の中での立ち直りをみんなで支え、見守る保護観察という仕組みが生まれました。

保護司や協力雇用主の皆さんが生活改善や就労支援に尽力していますが、高齢化や人手不足などの課題があります。再犯を防ぐためにまずできるのは、社会に戻ろうとしている人と支援する人がいることを理解し、邪魔せずにそっと見守ること。地域の防犯活動を活発にすることも重要です。立ち直ろうとする人が頑張りやすい環境をつくるのが、犯罪などを減らすことにつながるのです。

特集 再出発を支える 歩み出す背中に手を



犯罪や非行をした人が新たな一歩を踏み出すため、背中を押す役割を担う保護司や協力雇用主。過ちを犯した人が自らの過去と向き合い、社会の中へ戻るために寄り添う皆さんの姿を追いました。

地域包括ケア推進課 ☎225-2200

【保護観察とは】 犯罪や非行をした人が再び過ちを繰り返さないように、社会生活の中で専門知識を持つ保護観察官や民間ボランティアの保護司が指導と支援をする制度。

働くことで 生きがいを

協力雇用主・静科(金田)



従業員らが働きやすい職場をつくる

協力雇用主は、保護観察対象者のうち、自分で仕事を探せない未成年や働き口が見つからない人を受け入れる事業主です。雇い入れた対象者の様子を見ながら、自立して生活できるような雇用を通じて支援します。職場環境の審査などを通過すると登録でき、雇用は制度の仕組みや対象者との接し方などの研修を受けてから始まります。静科が協力雇用主になったのは人手不足解消に向け、社長の高橋俊二さん(55)が人材の集

頑張りやすい職場に

住宅街の一角にある町工場。モーター音を響かせながら、従業員が黙々と作業を進めています。吸音材などを製作する静科は、非行や犯罪歴のある人を受け入れて社会復帰を支援する協力雇用主です。今年で登録6年目を迎えました。



保護司としても活動する高橋さん

め方を調べていた時。制度の存在を知って研修に参加しました。「ただ働く場所をつくるだけではいけない。会社で働いた経験が一人の人生を左右するかもしれないという覚悟が必要だ」と意識が変わりました。会社に戻ると早速、どのような職場環境にするべきかを社員たちに相談。みんなで考えた末、特別扱いしない接し方を決めました。受け入れが決まった対象者には他の社員と一緒に研修を受けてもらい、業務の手順などを間違えた時には同じように注意しました。従業員の岩崎大輔さん(37)は「一緒に働くことに不安はなかった。仕事を説明する時も指導する時も丁寧に伝えるようにした。働く中で受け入れた人の成長を感じて、うれしかったのを覚えている」と当時を振り返ります。

未来につながる

これまで3人の対象者を受け入れてきた静科。2番目に来た川崎幹翔さん(21・下川人)は、約3年間にわたり在籍し、吸音パネルの組み立て業務を担当していました。「当時は無断欠勤をしたり、締め切りを守らなかったりと、迷惑をかけたけれど、先輩たちはいつも優しく接してくれた。社会人として働く姿勢を教えてもらった場所」。現在、別の会社で働いている川崎さんは「自分がしてもらったように、相手の気持ちを思いやれる先輩になりたい」と晴れやかな笑顔で話します。

仲間を増やしたい

高橋さんはより多くの企業に制度を知ってもらうため、会社が協力雇用主であることを公表



更生保護女性会の活動

協力者募集 更生保護 ボランティア

再出発しようとする人たちと一緒に支援しませんか。

《主な活動内容》

- 保護司 保護観察対象者との定期的な面談・指導や就労の援助、刑務所や少年院から釈放後の生活拠点の調査など
- 更生保護女性会
 - ・更生保護施設などでの食事作りや花生けなどの交流、物品の寄付(布団や雑巾、衣類など)
 - ・防犯教室などを通じた犯罪や非行の防止活動
 - ・子ども食堂の開催
- 協力雇用主 保護観察対象者への働く場所の提供や就労生活継続のための指導・助言など

☎電話で ■厚木地区保護司会更生保護サポートセンター ☎240-8331 ●横浜保護観察所 ☎045-201-1844へ。



今の仕事場に向かう川崎さん



進行を仲間と確認する岩崎さん(中央)

花から安らぎを 市内産のバラを市長へ贈呈



市役所に展示されたバラ

市園芸協会花き温室部会バラ部会の皆さんが山口貴裕市長を訪ね、バラの消費拡大をPRするため市内産のバラを贈呈しました。
バラは「愛」や「感謝」の象徴として、父の日に贈られる花として知られています。市内では年間約18万本が生産され、市場への出荷のほか、JAあつぎなどの直売所で販売されています。

贈呈式で大村太一バラ部会長は、「冬の期間に、一輪一輪を大切に育ててきた。花を通じて、市民の皆さんに安らぎを感じてほしい」と呼び掛けました。花束を受け取った山口市長は「すてきなバラを贈ることが、家族などの絆を深めるきっかけになってくれたらいい」と述べました。

夏に増える水の事故に備えて 相模川で潜水訓練を実施



声を掛け合いながら訓練をする

本格的な夏の行楽シーズンを前に消防本部が5月23、24日の2日間、相模川で水難事故を想定した救助訓練に取り組みました。
訓練は、水の事故が増える時期を前に、実際の現場で迅速な救助活動ができるよう実施しています。隊員たちは声を掛け合いながら、水中の視界や川底の状況、流れの速い危険な箇所などを一つ一つ確かめました。
訓練に参加した加藤僚祥さん(29)は「現場となる川での訓練は貴重な経験。いざという時に備えたい」と真剣な表情で話しました。
消防本部では昨年、6件の水難事故に出勤。「飲酒したら川に入らない」「子どもだけで遊ばせない」などと注意を呼び掛けています。



いつまでも元気な歯を 「歯と口の健康週間」に合わせてイベント

歯や口の健康の大切さを伝えるイベントが、保健福祉センターで開かれました。親子連れなど約60人が参加し、健康を保つための知識や日頃のケアなどを学びました。
イベントは、厚木歯科医師会が主体となって実施。会場では虫歯予防や歯のケアへの理解を促すため、白衣を着た子どもたちが歯科医師になりきって虫歯に見立てた模型を修復する体験や、歯科衛生士によるブラッシング指導などが行われました。



虫歯治療にチャレンジ

参加した荻野桜椰さん(8・中町)は「虫歯を治す体験は難しかったけれど楽しかった。絶対に虫歯にならないようにしたい」と笑顔で話しました。市では、本年度から高齢者を対象とした「オーラルフレイル健診」を新たに実施し、市民の歯と口の健康促進に取り組んでいます。

プロを目指して キックボクシング全国優勝とムエタイ国際大会制覇



二つのベルトを掲げる渡部さん(左)

アマチュアキックボクシングの全国大会とムエタイの国際大会で王者に輝いた、渡部要さん(小鮎中学校2年)が、山口貴裕市長に戦果を報告しました。
渡部さんは4歳から競技を始め、国内外の大会で活躍。これまでにアマチュアで25冠を達成しており、「キックボクシングとムエタイの両方で結果を残すことができうれしい。これからはプロを目指して頑張りたい」と、喜びとともに今後の抱負を語りました。山口市長は「大会で勝利し、自信に満ちあふれている。市内から、プロの格闘家が誕生することを楽しみにしている」と期待を伝えました。
渡部さんは、中学卒業後のプロ転向を視野に入れ、フィジカルトレーニングなどの練習に励んでいます。

「できなかつたらどうしよう」。不安を抱えて迎えた2日目、眼前には



全国から1800人が集結

バケツをひっくり返したような大雨と空を切り裂く稲光。5月31日と6月1日に荻野運動公園で開催するはずだった「モルックジャパンオープン」の初日は、悪天候の影響でまさかの中止に。世界大会にもつながるモルックの大会を招致し、各地から320チーム、大会役員を含め1800人の皆さんをお迎えしていただけに残念な心持ちでした。
「できなかったらどうしよう」。不安を抱えて迎えた2日目、眼前には
3回目でもようやくピンを倒せたのですが、悔しさが残るのでリベンジに向けて子どもたちと練習します。
本市では、「スポーツの聖地づくり」を目指しています。メジャースポーツもいいですが、モルックのようなニースポーツは誰にでもできるのが魅力です。今後も全国大会の招致などを通じ、本市の魅力の発信と活気にあふれるまちづくりを進めていきます。

見事な快晴が広がって見ました。短縮日程になりましたが、会場の至る所で熱戦が展開。一投に臨む選手からは緊張感が伝わってきました。
全国的な人気が高まるモルックは、木の棒を投げて点数の書かれたピンを倒す競技です。皆さんの熱気に誘われて挑戦してみても、これがなかなか難しい。3回目でもようやくピンを倒せたのですが、悔しさが残るのでリベンジに向けて子どもたちと練習します。

未来へ一歩つながる あつき70年 みんなで祝おう！ 70周年

2025年2月1日、市制施行70周年を迎えました。節目の年を皆さんとお祝いするため、スポーツ・文化芸術・歴史など幅広い分野で事業を実施。連載では、旬な話題を紹介していきます。

今月の話題

井上純×壁画プロジェクト ライブペインティング

厚木市出身のアーティスト・井上純さんによるライブペインティングを5月15日から22日まで、市役所新庁舎建設地の仮囲い(中町2-2)で行いました。



作品は工事完了まで見られる

テーマは、厚木で生まれ育った感謝や喜び。高さ3m・幅33mの広大なキャンバスを色鮮やかに染め上げました。井上さんは、市制70周年記念誌の表紙も手掛けています。

記念事業やイベントなどの情報は、市制70周年記念サイトをご覧ください。



タウンガイド

7月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

8月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

☑=申し込み ☎=問い合わせ ☎=電話番号
 FAX=ファクス番号 ✉=Eメール HP=ホームページ
 📄=講座予約システム (70th)=市制70周年記念事業
 📺=市広報番組あつぎ愛テレビ
 市役所への郵便物は「〒243-8511〇〇課」で届きます。

あつぎのしゃしん。



「アジサイ」
 #6月12日撮影
 #七沢森林公園
 #梅雨
 #niceatsugi
 市公式インスタ
 グラムで公開中



(70th) 記念映画「キリコのタクト～YELL～」観客エキストラ募集



映画の豪華キャストが大集結。クライマックスを飾るシーンに、エキストラとして出演しませんか。

日時 8月22～24日 ①8～13時 ②13～18時 ③18～22時
 会場 文化会館
 役柄 合唱コンクール会場の観客
 対象 市内在住在勤在学の小学生以上各日1000人
 ☑8月1日までに市HPから申し込み。抽選。



市HPはこちら

☎広報シティプロモーション課☎225-2040

ペットボトルキャップを使ったリサイクル体験教室

8月6日、10～12時。あつぎ市民交流プラザ。ペットボトルキャップでアクセサリやペンダントを作る。市内在住の小学生と保護者30人。無料。☑7月18日までに環境事業課☎225-2793へ。抽選。

後期高齢者医療制度資格確認書を送付

現在の保険証の有効期限は、7月31日までです。7月中に新しい医療資格確認書を特定記録郵便で郵送します。☎国保年金課☎225-2223。

ごみ焼却場の都市計画変更(廃止)に関する原案の説明会、縦覧、申出書の受け付け

《縦覧・公述申し出期間》7月3～16日《縦覧場所》都市計画課または市HP《公述申し出》市内在住在勤または当該都市計画と利害関係がある方など。☑都市計画課や市HPにある申出書を、直接または郵送(必着)、ファクス、Eメールで〒243-8511都市計画課へ。《●説明会》7月10日、19時～。依知南公民館《■公述会の傍聴(公述申し出があった場合に開催)》8月6日、19時～。依知南公民館。●■は手話通訳・要約筆記あり。☑直接、電話またはファクス、Eメールに会の名前、〒住所、氏名(ふ

りがな)、電話番号を書き、●7月9日■8月5日までに都市計画課☎225-2400・FAX222-8792✉4600@city.atsugi.kanagawa.jpへ。先着順。

介護保険負担割合証の更新

要介護・支援認定を受けている方や総合事業の対象者に、割合証を7月中旬に送ります。新たな申請者には、結果通知と併せて発送します。《適用期間》8月1日～(1年間)。☎介護福祉課☎225-2393。

幼稚園・認定こども園就職相談会

7月19日、13～16時。あつぎ市民交流プラザ。厚木地区私立幼稚園協会に加盟する幼稚園・認定こども園による就職相談会。就職を後押しする就労応援給付金などの制度説明も実施。無料。☑不要。☎こども育成課☎225-2262。

あかちゃんハイハイレース

7月12日、10時～14時30分。アミューあつぎ。専用コースをハイハイし、ゴールを目指す。定員120人。無料。☑不要。先着順。☎商業観光課☎225-2840。

あつぎストリートフェス(市民協働提案事業)

7月19日、17時30分～19時30分。中町花の公園。路上ミュージシャンによるストリートライブ。無料。☑不要。☎文化魅力創造課☎225-2508。

応急手当普及員講習会

7月29～31日、9～17時。睦合分署。事業所や地域などで応急手当の方法を教える資格の取得。市内在住在勤在学の18歳以上30人。3960円(テキスト代)。☑7月1～9日に救急救命課☎223-9365へ。抽選。

読んで書いて わくわく和田傳 講座

7月27日、①小学1～3年生=10時30分～12時②小学4年～中学生

=13時30分～15時30分。あつぎ郷土博物館。「和田傳短編集・令和版」の発刊を記念した作文教室。各回20人。200円(短編集代)。☑7月17日までに講座予約システムへ。☎あつぎ郷土博物館☎225-2515。

農大で生きもの探し

8月4日、10時～14時30分。東京農業大学。生き物調査や解説など。市内在住在学の小・中学生30人(小学生は保護者同伴)。無料。☑電話またはEメールに〒住所、氏名(ふりがな)、年齢、電話番号を書き、7月15日までに環境政策課☎225-2749・✉3100@city.atsugi.kanagawa.jpへ。抽選。

初めての植物画講座

8月23日、10時30分～15時。あつぎ市民交流プラザ。季節の植物を描く。市内在住在勤在学の小学4年生以上15人(小学生は保護者同伴)。1000円(小学生500円)。☑電話またはEメールに〒住所、氏名(ふりがな)、年齢、電話番号を書き、7月25日までに環境政策課☎225-2749・✉3100@city.atsugi.kanagawa.jpへ。抽選。

市内の大学で
楽しく学ぶ

あつぎ協働大学特別講座

市内大学と協働で講座を開きます。☎生涯学習課☎225-2512

●なぜヒツジのからだはモコモコしているのか?

《日時》7月24日 10～12時
 《会場》東京農業大学
 《内容》羊と触れ合い、羊毛でマスコットを作る
 《対象》市内在住の小学5・6年生10人
 《費用》407円(保険代、教材費)

■米国TV「SHOGUN」無料

「将軍」の歴史的背景
 《日時》8月23日 10～12時
 《会場》松蔭大学厚木ステーションキャンパス
 《内容》戦国から江戸時代までの対外交渉をひもとく
 《対象》市内在住の方80人

いずれも☑7月15日■8月1日までに講座予約システムへ。抽選。



参加無料 (70th) 楽しく体力・健康維持卓球クリニック

プロ卓球選手から直接、技術指導が受けられます。☎スポーツ魅力創造課☎225-2531

日時 8月17日 ①小学生=11時～ ②中学生=12時30分～ ③高校生以上=14時～(各回60分)

会場 荻野運動公園
 対象 市内在住在勤在学または市内の団体で活動する小学生以上各回40人
 講師 木下テーブルテニスクラブ所属のプロ卓球選手
 ☑7月20日までに市HPから申し込み。抽選。



詳細はこちら

ホット インターネットモニターからの意見を紹介



インターネットモニター募集
 厚木市 インターネットモニター 検索
 ☎広報シティプロモーション課☎225-2043

6月1日号「広報あつぎ」を読んで

◆みこしを担いでいる迫力のある写真は目を引いた/40代女性 ◆子育て世帯にも子どもを産みたいと考えている人にも、優しいまちだと思った/30代女性 ◆緊急時に救急車がない状況は避けたいので、普段から必要性を考えて利用したい/50代男性 ◆これからも歯の定期健診などを受けて、ケアしていきたい/60代女性 ◆稲作に関わるのが、里地里山を守ることにつながると思った/40代女性

編集後記

社会へ戻るため立ち直りを支える保護観察の世界を初めて間近で見て、さまざまな理由で犯罪や非行をする人がいることを知りました。それぞれに事情はあれど共通していたのは再犯せずに生きたいという思い。迷いながらも再出発をサポートする保護司や協力雇用主、戻すために努力をする皆さんの姿が印象的でした。再び前に進むために頑張る人たちがいることを知ってもらえたらうれしいです/野口

第79回 あつき 鮎まつり

開催日 8月2・3日

祭りの最新
情報はこちら



愛TV 7/1~

市内最大のイベント「あつき鮎まつり」を今年も開催します。夜空を彩る花火や出店など、楽しい夏のひとときをお過ごしください。

☎商業観光課 ☎225-2820

大花火大会

日時 2日 19時から打ち上げ 会場 相模川三川合流点

■有料観覧席チケットの発売

市制70周年を記念した約1万発の迫力ある花火を、打ち上げ場所に近い河川敷で観覧できます。

《発売》7月4日 10時～ 《販売所》セブンイレブン全店

《価格》厚木側 ▶ SS席(2人)=3万円 S席(2人)=2万円
 4人席=1万8000円 2人席=1万円
 海老名側 ▶ 5人席=1万8000円 4人席=1万6000円
 3人席=1万3000円 2人席=9000円

■「みんなの花火」の募金

大会のフィナーレを飾るスターマインを皆さんの募金で打ち上げます。

《受け付け》■1万2000円以上 = 商業観光課、厚木商工会議所、市観光協会
 ●1万2000円未満 = ■に加え、公民館、本厚木駅・東丹沢七沢観光案内所、市内郵便局

《期間》7月1～31日

オープニングイベント

日時 2日 14時～
 会場 中央通り～厚木なかちょう大通り
 内容 セレモニーと各団体などによるパレード



こども鮎つかみどり

日時 3日 ①8時45分～②9時45分～
 会場 相模川三川合流点
 内容 放流されたアユを素手でつかみ取る
 対象 ①年長～小学3年生②小学4～6年生
 ☎ 7月1～15日に市公式LINEまたは市HPにある専用フォームで受け付け。各回300人。抽選



みこしショー

日時 3日 14時～15時15分
 会場 厚木なかちょう大通り



市民出店村

日時 2日 10～21時 3日 10～18時
 会場 厚木中央公園
 内容 飲食・物販など約70店舗が出店

Atsugi Dance Legend

日時 2・3日 ①9時30分～12時②14～19時(3日は18時まで)
 会場 厚木中央公園
 内容 ダンスのコンテスト

DREAMフェスタ2025

日時 3日 10～20時
 会場 厚木公園
 内容 縁日やキャラクターショー、灯籠上げなど



民踊総おどり

日時 3日 16時～16時30分
 会場 厚木なかちょう大通り



自然歳時記

●キジ●
キジ科

全長は、雄で81センチ、雌で58センチほど。赤い顔と濃緑色の胸が美しく、国鳥として親しまれる。物語にも登場する人気の鳥で、県や市の鳥としての指定もある／中荻野・荻野川流域で見つけた。 写真・文／吉田文雄



「ケンケン」。甲高い声で口を大きく開け、羽をばたつかせたキジが鳴いていた。美しく、勇気と母性愛にあふれる人気の鳥だ。

以前、こんな光景を目にした。雨が降りしきるテニスコートに、羽がびしょびしょにぬれた雌のキジが迷い込んできた。私が助けようと近づく

と、「ドドドドッ」という音とともに雄のキジが、やぶから走り出てきた。こちらをにらみながら雌に近づき、金網越しに何やら話してから連れ添うように飛び去っていった。

人を恐れないキジの勇気ある行動は、人間よりもはるかに深い愛情と絆で結ばれていた。

厚木市の人口
(6月1日現在)

世帯数 10万7092世帯 (前月比28世帯増)

人口 22万3168人 (前月比102人減) 男11万5088人・女10万8080人